

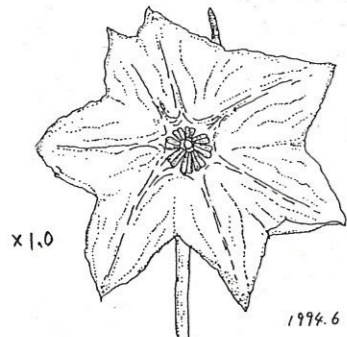
# すっかんぽ

1994年6月号

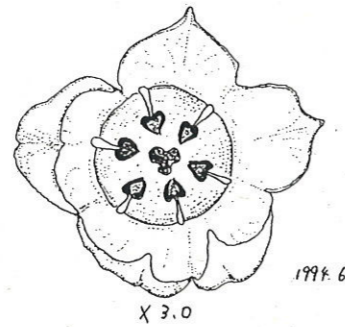
## 野菜の花

「トウモロコシを分けてもらえませんか。」私は、学校のすぐ前の畑で、農作業をしているおじさんに声をかけた。生物の授業で使いたいのですが…と説明すると、「どうぞ、どうぞ好きだけ持っていてください。」と笑いながら答えてくれた。理科準備室から時々、農作業をしているおじさんの姿は見えていたが、話をするのは初めてだった。おじさんの名は、早乙女さんといひ、だいたい午前中の11時くらいまで農作業をやっている、と教えてくれた。早乙女さんとは、仲良くなれようである。「また遊びにきます」そう言て畑を後にした。

今回は、早乙女さんの畑で、今咲いている野菜の花を紹介しよう。左から、ナス、ピーマン、トマト、ジャガイモ…。ナス、ピーマン、トマトは、花の咲いた後、食用の果実をつけるがジャガイモは、地中のイモ(塊茎)を食用としている。前三者比べて、ジャガイモは、全くかけ離れた植物のようにも見える。



ナス・インド原産



ピーマン・南米原産

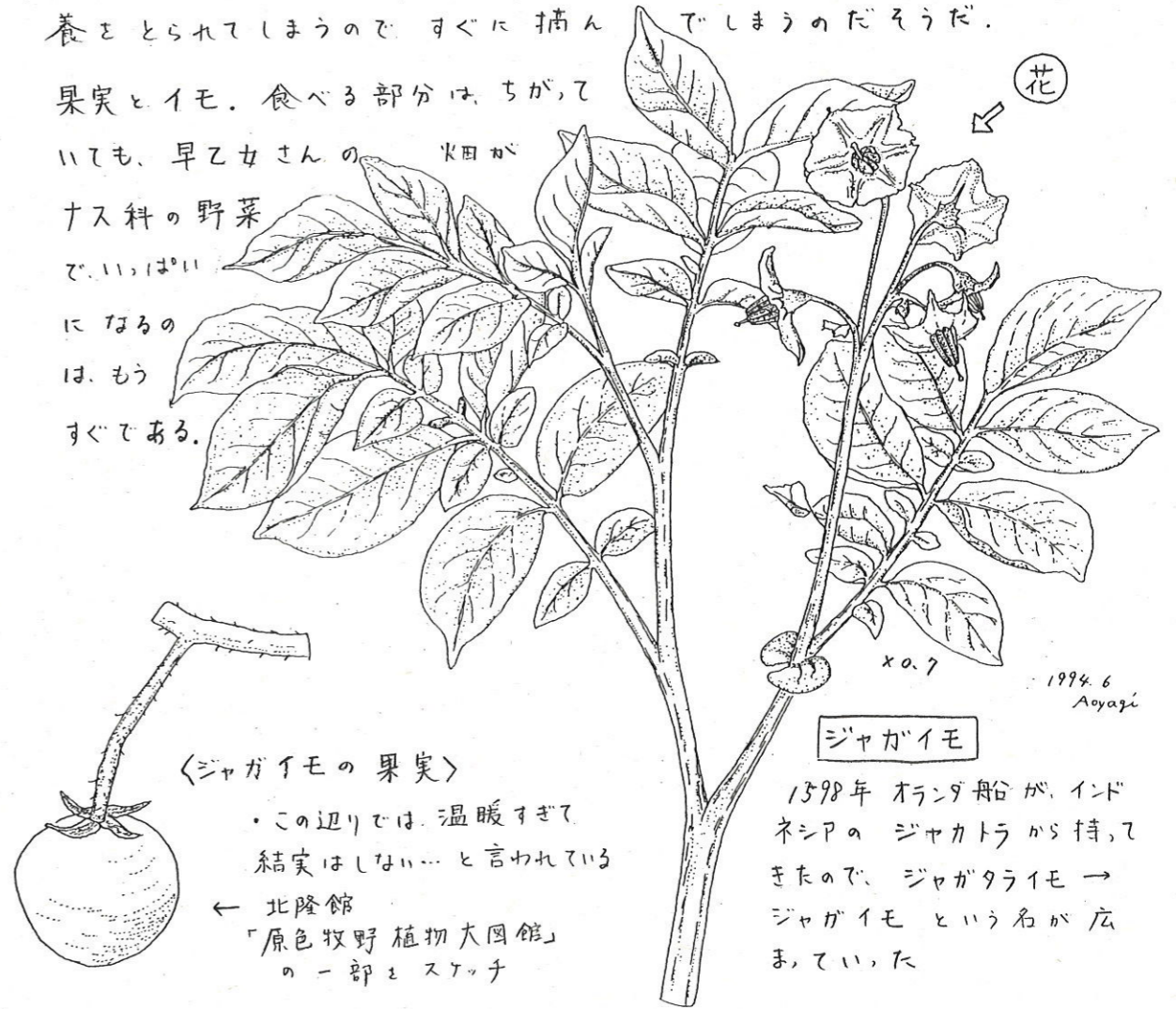


トマト  
・南米原産  
(アカナス、の異名もある)

ジャガイモを小学校などで栽培したことのある者なら、イモを小さく切り、切り口に灰汁をぬって、土に植えたことを憶えているだろう。しかし、ジャガイモにも、れきとした花が咲き果実をつけるのである。しかも、花の形は、ナスの花によく似ており、食べられはしないが、果実は、青いトマトがナスに似ている。じつは、ジャガイモ・トマト・ピーマンは、同じナス科に属するナスの仲間なのである。特にトマトとジャガイモは、共に南米のアンデス山脈が原産地とされ、兄弟みたいな植物なのだ。野生のジャガイモは、トマトのような小さな果実をつけ、種子でふえるため、イモはそれほど大きくはならないらしい。

早乙女さんの畑では、ジャガイモの花もそのまま着けておくと、栄養をとられてしまうので、すぐに摘んでしまうのだそうだ。

果実とイモ、食べる部分は、ちがっていても、早乙女さんの畑がナス科の野菜でいっぱいになるのは、もうすぐである。



〈ジャガイモの果実〉

・この辺りでは、温暖すぎて結実はしない…とされている

← 北隆館「原色牧野植物大図鑑」の一部イラスト

ジャガイモ

1598年 オランダ船が、インドネシアのジャカルタから持ちてきたので、ジャガタライモ → ジャガイモ という名が広まっていた

1994.6 Aoyagi